

きゅうり病害虫防除暦

JA庄内たがわ 令和8年(2026年)版

《殺菌剤》

2026年1月1日登録反映分にて作成

防除時期	対象病害虫								薬剤名	希釈倍率	水100ℓ当たり 薬剤量	使用時期	使用回数	使用方法	同一成分 回数	RAC コード	効果		備考			
	黒星病	斑点細菌病	べと病	褐斑病	うどんこ病	灰色かび病	菌核病	つる枯病									炭疽病	コナジラミ類		予防	初期治療	
生育期	約10日おきに防除を実施	○				○	○	○	○	○	トップジンM水和剤	1500~2000倍	66~50g	収穫前日まで	5回以内	散布		F:1	○	○		
						○	○	○				アフエットフロアブル	2000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	散布		F:7	○	○	
				○								セイビアーフロアブル20	1000倍 1000~1500倍	100ml 100~66ml	収穫前日まで	3回以内	散布		F:12	○		繰り返し使用する場合は散布間隔を7日以上あける。
						○	○					ミギワ10フロアブル	1000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	散布		F:52	○	○	
				○	○							ジマンダイセンフロアブル	500~800倍	200~125ml	収穫前日まで	3回以内	散布		F:M03	○		極端な高温多湿条件下では、軟弱幼苗に薬害のおそれ。
				○	○							アリエッティC水和剤	400~800倍	250~125g	収穫前日まで	3回以内	散布		F:M04 F:P07	○	○	無機銅剤(カスミンボルドー等)との近接散布は薬害のおそれ。フロアブル剤と混用する場合、必ずフロアブル剤を最初に所定濃度に希釈してから、この剤を最後に加える。
				○	○	○	○	○	○			ベルコートフロアブル	2000倍	50ml	収穫前日まで	7回以内	散布		F:M07	○	○	
			○	○	○	○			○		ダコニール1000	1000倍	100ml	収穫前日まで	12回以内	散布	合わせて12回以内	F:M05	○			
			○								プロポーズ顆粒水和剤	1000~1500倍 1000倍	100~66g 100g	収穫前日まで	3回以内	散布		F:40 F:M05	○	○		
							○	○			スミレックス水和剤	1000~2000倍 1000倍	100~50g 100g	収穫前日まで	6回以内	散布	同一成分とみなし耐性菌出現防止のため連用を避け、総使用回数は3回以内とする。	F:2	○	○	定植直後又は幼苗、軟弱苗等には薬害のおそれ。高温時の散布は薬害のおそれ。	
							○		○		ロブラール水和剤	1000~1500倍 1000倍	100~66g 100g	収穫前日まで	4回以内	散布			○	○		
			○								トリフミン水和剤	3000~5000倍 3000倍	33~20g 33g	収穫前日まで	5回以内	散布	EBI剤(DMI剤)(F:3)は耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。	F:3	○	○	幼苗期に、濃緑化症状・生育抑制の恐れがあり、使用しない。	
					○						アミスター20フロアブル	1500~2000倍 1500倍 2000倍	66~50ml 66ml 50ml	収穫前日まで	4回以内	散布	同一成分とみなし耐性菌出現防止のため連用を避け、総使用回数は2回以内とする。	F:11	○	○	浸透性を高める効果のある展着剤の混用は薬害のおそれ。	
					○	○	○		○		ストロビーフロアブル	3000倍	33g	収穫前日まで	3回以内	散布			○	○	調整の際は、水をかきまぜながら所定量を徐々に加える。浸透性を高める効果のある展着剤の混用は薬害のおそれ。	
				○						ランマンフロアブル	1000~2000倍	100~50ml	収穫前日まで	4回以内	散布		F:21	○	○			
				○						ダイナモ顆粒水和剤	2000~5000倍	50~20g	収穫前日まで	3回以内	散布		F:21 F:27	○	○			
		○	○							カスミンボルドー	1000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	散布		F:24 F:M01	○	○			
						○				モレスタン水和剤	2000~4000倍 2000倍	50~25g 50g	収穫前日まで	3回以内	散布		F:M10 I:UN	○	○	単用散布とする。また、高温時、定植直後や幼苗、軟弱苗等には使用しない。		

《土壌処理剤》

防除時期	対象病害虫										薬剤名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	同一成分 回数	使用方法	RAC コード	備考	
	1年生雑草	白絹病	つる割病	半身萎凋病	ネグサレセンチュウ	ネコフセンチュウ	アブラムシ類	前作の病害虫蔓延防止	アザミウマ類	ホモフジセンチュウ									ネコフセンチュウ
定植前	○	○	○	○								ガスタード微粒剤(劇)	20~30kg/10a	播種又は定植21日前まで	1回		本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	I:8F	
	○		○									キルパー	原液として 40~60ℓ/10a	播種または定植15日前まで	1回		予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。	I:8F H:Z	クロルピクリン・D-D及び両者の混合剤とは混合しない。希釈倍率は100倍程度を目安(但し低温時は50倍程度とする)とし、圃場土壌水分状態を考慮して適宜増減する。低温時は処理期間の延長や、耕起ガス抜きを十分行う。
													原液として 60ℓ/10a	前作の栽培終了後から残渣撤去まで 但し、は種又は定植の15日前まで					
													原液として 40~60ℓ/10a						
													原液として 60ℓ/10a						
					○	○						バイデートL粒剤(劇)	25~50kg/10a	播種前又は定植前 定植前	1回		全面土壌混和	I:1A	2種類の線虫とアブラムシ類にも登録あり。
						○					ネマトリンエース粒剤	15~20kg/10a	は種前又は定植前	1回		全面土壌混和	I:1B	線虫と薬剤が接触することで線虫の活動を阻害。	
						○					ネマキック粒剤	15~20kg/10a	定植前	1回	2回以内(定植前の土壌混和は1回以内、生育期の土壌灌注は1回以内)	全面土壌混和		成分が土壌中で速やかに拡散し、線虫に対し長期間残効性がある。	
生育期						○					ネマキック液剤(劇)	4000倍	生育期 但し、収穫前日まで	1回		土壌灌注(2ℓ/㎡)			

《除草剤》

防除時期	適応雑草	薬剤名	使用量	散布流量	使用時期	使用回数	使用方法	RAC コード	備考
生育期	1年生雑草	バスタ液剤	300~500ml/10a	100~150リットル/10a	収穫前日まで (雑草生育期 耕起前・は種前・定植前又は畦間処理)	3回以内	雑草茎葉散布	H:10	うり類(未成熟)で登録

